

企業訪問（平成27年9月9日）

富山労働局働き方改革推進本部では、県内企業の働き方改革取組の一環として、企業訪問を実施しています。

平成27年9月9日、本部長（富山労働局長）、副本部長（富山労働局労働基準部長）、本部担当者の3名で、下記の企業を訪問しました。

企業情報

株式会社コージン（上市町）

代表者：代表取締役社長 小柴 雅信

所在地：（本社・工場）上市町 社員数：149名

海外関連会社：PT.Kojin.Indonesia（インドネシア）

事業内容：

樹脂に配線用の金属を挿入したプラスチックインサート成形品の製造及び販売。

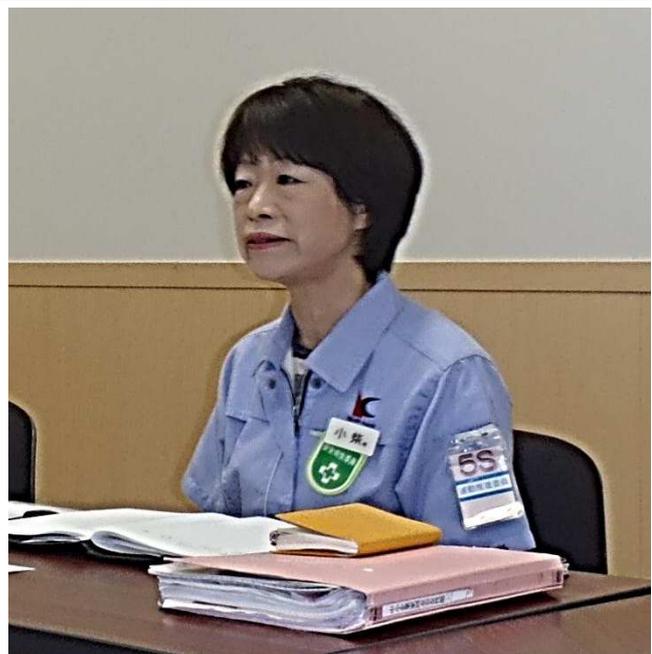
同成形品は、産業機械用の半導体部品や自動車のブレーキ制御ユニット、ハイブリットモーター用のインバータ等に幅広く使用されている。



トップのメッセージ

自分自身も家庭の主婦として、家事や育児をしながら経営に携わってきた経験から、仕事も大切ですが、家庭で家族や子供と過ごす時間も人生の中でかけがえない大切なものであると考えています。

社員一人ひとりが、仕事と家庭生活との調和（ワーク・ライフ・バランス）を図りながら充実した毎日を過ごせること、また、女性はもとより、外国人、高齢者、障がい者など多様な視点を持った社員がいきいきと活躍できる職場、ダイバーシティの推進が、豊かで柔軟な発想を生み、会社の発展にも繋がると信じています。



社員一人ひとりのワーク・ライフ・バランスの大切さ等を説明される小柴順子会長。

企業の取組

女性の活躍推進のための職場風土づくり

女性が全社員の5割以上を占める中、「女性は男性の補助的な仕事をするもの」といった昔ながらの固定観念の払拭や、女性の活躍の機会を奪うことにもなりかねない女性社員に対する過剰配慮の防止等のため、県などが主催する女性の活躍推進のための各種研修会やセミナー等に女性社員を積極的に参加させている。そうした研修会や



株式会社コージンの工場内の風景

セミナー等で学んだ女性社員が、リーダーとなり社内の意識改革に取り組んでいる。

こうした職場風土づくりを進める中で、生産現場での仕事を希望する女性社員も増えており、玉掛け作業やクレーンの運転操作をするための資格を取得する女性社員も出てきている。

清潔で明るい職場づくりを目指し、毎週全社で5S活動（整理、整頓、清掃、清潔、躰）に取り組んでいるが、5S活動の推進組織である「5S活動委員会」には女性社員も多数参加し、企画提案から工場見学者に対するプレゼンテーションまで担当し、女性社員の活躍推進や育成の機会にもなっている。

工場見学者から、工場は「汚い」「暗い」ものという従来のイメージが払拭されたとの声が聞かれたり、女性の就活生が工場を見学したことを契機に、同社への入社志望意思を固めるなどの効果も出ている。

育児休業制度の積極的な活用

過去5年間で10名が育児休業を取得しており、女性社員は、100%の取得率となっている。また、3年前には、男性社員が約半年間の育児休業を取得している。

昨年は、外部講師を招き、男性社員を対象とした『イクメン・カジダン』講座を開催し、仕事だけではなく家庭における父親としての役割の重要性を学ぶ機会を設け、男性社員の意識改革にも取り組んでいる。



小柴順子会長の説明を聞く本部長（富山労働局長。左）と副本部長（労働基準部長。右）

所定外労働の削減等

月1回のノー残業デーを設定している。

管理部門では、時間外労働の状況をシステムで把握管理し、時間外労働が一定水準を超えるとアラーム表示が出るように設定しており、アラームが表示されると、直ちに該当部署の管理者に管理部門より改善を指示するようにしている。

管理部門から、毎月、一定水準以上の残業をした社員を明示した名簿を各管理者に回覧し、特定の社員に業務が偏ることのないように改善を促している。

年次有給休暇の取得促進

年に2日は、計画的年次有給休暇の一斉取得日と定め、取得促進を図っている。

ダイバーシティの推進

定年後、本人の希望に応じて65歳以上の高齢者が、2か月ごとに体調や本人都合を確認しながら就労が可能な制度を設けており、障がい者雇用の取組も進めているところである。また、外国人の採用にも積極的に取り組んでおり、現在、社員と技能実習生を合わせて25名の外国人（インドネシア、中国、フィリピン、ブラジル）が在籍している。これら社員等が仕事や会社行事を通して、多様で柔軟な発想を生み出す職場風土づくり、ダイバーシティの推進に貢献している。



意見交換をする小柴順子会長（右端） 総務課担当谷口絵梨子さん（右から2人目） 本部長（富山労働局長。左端） 副本部長（労働基準部長。左から2人目）

就業体験の提供

高校生や大学生等のインターンシップ、14歳の挑戦等を積極的に受け入れ、就業体験の提供を通じて、地域社会への貢献や次世代育成対策の推進に努めている。

これからの取組

当社の取組は、まだまだ緒についたばかりだと考えており、今後、ワーク・ライフ・バランスの実現や、女性はもとより外国人、高齢者、障がい者などの多様な視点を持った社員の一層の活躍、ダイバーシティの推進を図ることができる様々な取組にチャレンジしていきたいと考えている。